



いっぺいといっふく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えます。  
市HP「によぜがもん」もぜひご覧ください。

## Vol.92 長久手のまちづくり

例年、土日には、さまざまな行事に参加させていただいていますが、コロナ禍で多くの行事が中止・延期になりました。そこで私は、空いた時間を使って、地域共生ステーションを回り、まちづくり協議会の会議に参加したり、そこで働く人達と意見交換したりしていました。市が洞小学校区まちづくり協議会の役員会に参加したとき、こんなことを思いながら聞いていました。

その昔、市が洞小学校区的高速道路より南側は、狭い道路が数本通るだけの雑木林で、古タイヤや壊れた電化製品などの不法投棄が絶えませんでした。「自分達のふるさとが、ごみの山になってしまう」と危機感を抱いた地元住民が、平成3年に準備委員会を立ち上げ、平成5年に土地区画整理発起人会を作り、地権者に同意をいただき、平成10年に長湫南部土地区画整理組合を立ち上げました。私もそのメンバーの一人でした。

長湫南部土地区画整理事業では、「歩くことが楽しくなるまち」を基本理念に「駅よりも、みどりに近い方が価値がある」との思いを持って、ハード面の整備を行ってきました。「どうい公園にするか?」といったことを話し合うときには、より多くの人に集まってもらえるように、話し合いの隣で餅つきを行ったりもしました。「ふるさとをごみの山にしてはいけない」と動き始めてから30年以上が経ち、熱い思いを持って事業に取り組んできた人達は、高齢になり、亡くなった方も大勢います。今、この地域に暮らす人達が、「次の世代のために何ができるだろうか」とまちづくりに取り組んでいる姿を、もし、亡くなった方々が見たら、「きっと感動するだろう」と私は胸が熱くなりました。

長久手では、昭和47年以降、市街化区域のほとんどをこうした住民が行う組合施行の土地区画整理事業で整備してきました。土地区画整理事業では、公園や道路といった公共用地を作るために、地権者から土地の一部を提供してもらう必要があります。先人たちは、地権者から「自分の持つ土地の面積が減るが、まちづくりへの同意を得る」という大変な苦勞をしながら、後世にわたって住みやすい長久手を作ろうと頑張ってきたのです。

昭和47年当時、長久手の人口は1万2千人余りでした。それから50年が経って、今や人口は6万人を超えました。「長久手市に住みたい」と多くの世帯に引っ越してきていただいています。その世帯から生まれた子ども達にとっては、この長久手が「ふるさと」です。私は、子ども達に、困ったことがあれば「助けて」と言える、お互いに支え合える「ふるさと長久手」を残したいと思っています。そうした地域になるまでには、まだまだ悩みや苦勞があると思いますが、その積み重ねが物語になり、さらに住みやすい長久手になっていくのだと確信しています。

**ふれあい つながり みんなが楽しむまちづくり**  
こんにちは! **西小学校区まちづくり協議会** 検索 です。

**災害時の避難のあり方が変わりました**

避難先は

- ①自宅が安全なら「在宅避難」
- ②可能であれば親戚・知人宅への「縁故避難」
- ③「避難所への避難」の順で検討してください。  
(\*消毒液・体温計・スリッパ・マスク等を持参する)

◆今年度も、例年と同様の一斉防災訓練はありません。  
参加者を地域の代表者に限定し、感染症対策をした避難所の開設訓練を行う予定です。

☎0561-64-5331 西小学校区共生ステーション  
Eメール nishi.no.machikyo@gmail.com

市が洞 市が洞小学校 イメージキャラクター

市が洞小学校区まちづくり協議会  
<https://ichigahora.jimdofree.com/> (協議会HP)

**子どもたちが植えた“さつまい”を収穫します**

小学2年生が、この春に植え付けた“さつまい”が元気に育っています。  
秋の収穫を次のとおり予定しています。

**【収穫】**  
11月18日(木)に子どもたちが、畑で芋掘りをします。  
植え付けに引き続いて協議会がこのお手伝いをします。

**【味見】**  
12月には、学校で2年生と一緒に、芋をふかしてみりの味を楽しみます。

**長久手市地域見守り安心ほっとライン** **0561-63-5556** 24時間 365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

